

誠美だより

11
2015/NOV
誠美保育園



秋、丘の上から

朝夕が肌寒く感じる日を経るにつれ、秋の深まりと冬の入口もすぐそこなのかなと感じます。それでも、快晴の日の日中は、少し汗ばむくらいで気持ちよく、先日そんな秋空の下、4・5歳児に混じって芋掘りに出かけました。

とはいえ、私はスコップ、シート、バケツ、バスタオル、ダンボールなどを車の荷台に積み込み、一足先に芋畑へ。職員と下準備をしながら、みんなの到着を待っていました。毎年芋掘りをさせて頂く伊藤農園は、保育園から北(由木西小方面)へ約2キロ、歩いて50分ほどの上柚木会館の裏手、丘陵地(農耕地)の一角にあります。この広々とした丘の上から眺める景色は最高です。南方を望むとニュータウン街並みが広がっています。

「今年は、いま一っだね。」農園の伊藤さんが話してくれました。8月下旬から9月にかけての長雨が影響したようです。芋畑の脇の、大きくシートを敷かせてもらった平地も、本来なら陸稲(おかば)が育つは

ずの場所だったそうです。

子どもたちを待つ間、広がる青空と陽だまりと、土の匂い、そして人気のない静寂に包まれながら、そんな会話でのんびりと過ごすこの一時間が、実は毎年の楽しみなのです…これは内緒ですが。

「たくさん周りを掘るんだよ。」

そんな掛け声で芋掘りが開始です。これを言っておかないと、子どもたちはツルを引いて、芋を引っ張り出そうするのでここが肝心です。ツルが切れてしまうと、ここに芋があるかわからなくなるからです。だから芋「掘り」なのです。

みんなもそれをよく理解しているようで、次々と掘り出される芋を眺めてみると、素人目には、十分大きいものがたくさんついていたように感じました。大概の子は、「見て!」と手に入れたの収穫物を目の前に高くかざして披露してくれます。もちろん、大きな芋には満足げなのですが、ひょろとした、短なごぼうのようなものもあったり、嬉しげな表情に全く変わりが無いのが、本当にいいなあと思うのです。むしろ指先くらいに小さいものを見つけると大声で呼んでくれたり。

慣れてくると、形が何かに似ている事や、繋がつて掘り出される事などの面白さに気づいて、楽しみ方を個々に広げていくのがわかります。

一通り掘り終え、満足した何人かの子どもたちが、シートを広げた平地で、鬼ごっこをはじめていました。素足で感じる、ひんやりとした、そしてよく耕されふわふわした土の感触の面白さが、自然にこの遊びへと誘ったのだなと感じる光景でした。

今回、子どもたちを待つ間に発見した近道を使って丘陵を下ったところ、帰り道は10分ほど短縮できたような気がしますが、同行してくれた諸町先生（体操指導員）が「午前中の往復、この距離を子どもたちはよく歩きますね。」と驚いていました。丘陵近くにトイレさえあれば、ぜひおにぎりを持って出かけたところなのですが。

まず芋畑まで往復できる体力…ここを目指して、0歳からの遊びが始まっています。

園長 折井誠司

「みんなの作品展」募集！

文字通り「みんな」の作品を展示します。子どもたちだけでなく、保護者や地域の方々の作品も数日間、展示させて頂き、みなさんの作品発表の場、作品を通じた交流の場となり、共に創ること、表現することの楽しさを味わえたらと思います。

期間はおおよそ11月4日（水）～13（金）としておりますが、だんだんに展示が増え、期間も柔軟な作品展です。保護者ご自身の作品、ご友人の作品、お子さんがご家庭で作った作品など、どなたのものでも構いません。世には、「コレクション展」というものもあります。珍しいもの、貰ったもの、拾ったもの、買ったものでも、その人なり

の特別な思いが込められているものなら、それも作品なのだと思います。色々な「モノ」を通して、みんなで交流しませんか？ぜひ、ご出展いただければと思います。

工事、園舎内まもなく完了

まもなく階段ホールを完了し、室内の工事全てが終了します。長期に渡りご協力ありがとうございました。その後、2階テラス部分にとりかかります。もうしばらくご不便をお掛け致しますが、よろしくお願い致します。

遊歩道側の増築については、外壁を終え、内部の作り込み入っています。8月～9月の天候不順や資材確保等の影響で、工期が延びております。

- 編集 誠美保育園
- 編集人 折井 誠司
- 発行人 折井 誠司
- 印刷所 誠美保育園
- 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-12

電話 042-6775-1551

ファックス 042-6775-643

Email seib@hokuen.jp

<http://hokuen.jp/>